



Passage Tells: Ameyoko

2020年2月14日～4月19日

作品公開のお知らせ

2020年1月31日
Passage Tells Project
PRESS RELEASE

Passage Tells Project は、街のある1つの通路に焦点を当て、そこで働き暮らす人たちのインタビュー音声から制作されるサイトスペシフィック・サウンドインスタレーションです。シリーズ4作目「Passage Tells: Ameyoko」は、今や来訪客の7割が外国人といわれる東京上野の商店街「アメ横」が作品の舞台。様々な国から東京に移住し、飲食店の常連となったお客さんたちの物語が、アメ横の今の姿を描き出します。アートスペースではなく居酒屋という「現実社会」で体験する異色の作品です。2月14日からの一般公開に向けて、ぜひ広報へのご協力とご来場をお願い致したく、プレスリリースをお送りします。

作品紹介

正月用の食材を目当てに訪れる大勢の買物客。日本の年末の風物詩として親しまれてきたアメ横では近年、昔からある魚屋や洋服屋と並んで、中華料理屋、ケbab屋、居酒屋といった飲食店が数多く軒を連ねるようになりました。中華料理屋の常連であり、日本に20年以上暮らす中国人男性は「アメ横は私たちにとって懐かしい場所だ」と語ります。様々な出自を持つ人たちが、少しずつ違う「懐かしさ」を求めて集まる街。ここでは、顔も名前も知らない他人同士が、自分の居場所を求めてわずか数百メートル続く飲食店の軒先に足を運び、同じ時間を過ごしています。ただし客層は店によって鮮やかな区別があり、となりの店の客同士が交わる機会はないようです。

上野アメ横の立ち飲み居酒屋「魚草」のメニューに書かれた「音楽と酒（1000円）」を注文すると、客は酒を片手に隠し小部屋へと案内されます。そこでは、アメ横に足を運ぶ無名の常連たちの物語が再生されます。言葉を交わすことなくすれ違っていた「他人」たちの物語に耳を傾けると、都会の愛おしき隣人が形を帯びてくるでしょう。

開催概要

開催日：2020年2月14日（金）～4月19日（日） ※毎月第2水曜日は会場定休日のためクローズ
開始時間：11時、12時、13時、14時、15時、16時、17時、18時、18時50分、19時50分（最終回は平日のみ）
料金：1,000円 所要時間：20分程度
詳細・ご予約はこちらから：<http://passagetellsproject.net/ameyoko/>

会場：アメ横「魚草」 東京都台東区上野6-10-7 アメ横センタープラザ29号（上野駅 / 御徒町駅より徒歩5分）

営業時間：平日 11:00 - 20:00LO 土日祝 11:00 - 19:00LO 毎月第2水曜日定休

<https://goo.gl/maps/ic7HLGqymF9wmChn6>

アメ横「魚草」店主・大橋磨州よりコメント



お皿に盛られた魚。山積み衣類、チョコレート。そして「どれでも千円、千円！」の売り声が路上に響くアメ横で、立ち飲み屋「魚草」もまた、「肴と酒」を組み合わせた様々な「千円セット」を販売しています。

今回、人気の「生牡蠣2ケと酒」「あての盛り合わせと酒」などに交じって提供される「音楽と酒」は、新メニューであると同時に、お皿に盛ることも食べることもできない「聴くアート作品」です。すぐそばの芸術の杜に比して、物売りの聖地とも言われるアメ横にあっては一見逆説的な試みですが、音楽として再構成される路上の喧騒や場所の記憶、一瞬交わっては離れていく無名の他人の語りは「すでにそこにあるもの」であり、この場所に集まる人たちが日々「味わっている」ものそれ自体でもあります。私たちは無粋にもそれを明示する代わりに、あえて「音楽」を注文しようという客の粋を、ひとつひとつ拾い集めていきます。テイクアウト不可の、ここでしか味わえないメニューです。ぜひアメ横に足をお運びください。

Passage Tells Project とは

Passage Tells Project は、街のある1つの通路に焦点を当て、そこで働き暮らす人たちのインタビュー音声から制作されるサイトスペシフィック・サウンドインスタレーションです。第1作目のPassage Tells: Brixton では、再開発が進む南口ロンドン・ブリクストンの小さな商店街を舞台に、移民たちが抱える将来への不安、街の変化の中で力強く生き続ける個人の物語を描きました。第2作目のPassage Tells: Edinburgh では、世界遺産となった観光地の中心部で暮らし続ける地元の人々の生活に焦点をあて、観光地化の光と闇を描きました。第3作目のPassage Tells: Shibuya は、大量の利用客で殺伐とした渋谷の駅構内で働く人たちの物語に焦点を当てており、アメ横での作品発表が、プロジェクトの第4作目となります。



Passage Tells: Shibuya (2017)



Passage Tells: Brixton (2015)

アーティスト 中澤大輔



中澤大輔は、人や場所、社会や習慣といった私たちの日常の背後に潜む小さな物語に耳を傾け、収集された物語を点と点をつなぐように再構成することで、新たな物語を生み出すアーティスト。2015年ロンドン芸術大学セントマーチンズ校の修士課程「Narrative Environment」を卒業。彼のバックグラウンドである演劇・建築・文化人類学などの手法を用いることで、人々が参加し体感しながら、オルタナティブなものごとの見方を発見するための体験型作品を展開している。また彼は劇団・ペピン結構設計の創立メンバーとして学生時代から演劇作品の発表を行ってきたが、劇団活動としても、近年では劇場を飛び出し、都市や自然の風景を舞台に、その場所にある人や空間を素材として使った演劇作品の発表に注力している。
<http://architectingstories.com>

クレジット

主催：アメ横「魚草」+ Passage Tells Project

構成・演出：中澤大輔 イラスト・ドア外装：長澤雪恵 ドア製作：入倉信幸、佐藤将徳

公式ウェブサイト：<http://passagetellsproject.net/ameyoko/>

お問い合わせ

Passage Tells Project 広報担当：脇屋佐起子 pta-info@passagetellsproject.net